

# 全電源喪失の記憶

証言 福島第一原発

## ■第4章「東電の敗北」

3月14日午後8時ごろ、東京電力

福島第一原発2号機では、燃料切れ

になって、消防車に軽油が入ら

れ、原子炉への海水注水が始まった。

担当者から「お風呂で」報告すると免

位が出てきました」と報告すると免

震重要棟の対策本部内に安堵の雰囲気

気が広がった。

だが気を抜けない状況は続く。間

もなくすると、格納容器圧力が上昇

し始めたのだ。午後10時50分には、

最高使用圧力が2.8<sup>メガ</sup>を超え5.4

0<sup>メガ</sup>に、午後11時46分には7.50

だ。「2号機にやっ」と水が入って『助

## 2号機の危機的状況

10



# 圧力高止まりに焦り

かった』と思っただんですけど、今度

はベントがうまくできない。サチ

ャベントをやるのが、ドライウエ

ルベントをやるのか、できる、でき

ないで、ざっと作業してました」。

吉田は後述でこう語っている。

サチャベントとは、格納容器

内の蒸気を、原子炉建屋地下の圧力

抑制室(サプレッションチャンベ

ラ)で見ていた本店の東京電力

幹部たちの焦りも頂点に達した。お

ける方法で、理論上は放射性物質が

千分の1以下に減るとされる。

だが格納容器(ドライウエ

ルベント)から外部に出すベントだ

▲原子炉建屋が水素爆発した東京  
電力福島第一原発の1号機(左)と  
2号機(右) 2011年3月13日

と、環境汚染はより深刻なものとな

る。吉田はサチャベントを優先

するよう、2号機中央制御室に指

示したが、バッテリーをつなぎ込ん

で、操作ではなかなか弁が開かなか

った。

さらに原子炉圧力も再び高まり、

家族と朝食を取ってからの出勤した。

食卓には妻と小学4年の息子、そし

て母親。「今日は飲み会があるので

遅くなる」と妻に告げて家を出た。

そんな何げない日常の光景が今、

日付が15日に変わるころ、テレビ

会議で見守っていた本店の東京電力

幹部たちの焦りも頂点に達した。お

ける方法で、理論上は放射性物質が

千分の1以下に減るとされる。

だが格納容器(ドライウエ

ルベント)から外部に出すベントだ

ら直接、蒸気を外部に出すベントだ

った。「今開ける操作してますんで、

も何度も息子の名前を呼んだ。

(敬称略。年齢、肩書は当時。共  
同通信 高橋秀樹)

この様子を田卓の後方で見ていた

復旧班電気設備担当の機員拓(51)は

同僚と「俺たち、もう駄目だな」と

話していた。

機員は事故が起きた11日の朝、原

発に近い大熊町の自宅で普段通りに

家族と朝食を取ってからの出勤した。

食卓には妻と小学4年の息子、そし

て母親。「今日は飲み会があるので

遅くなる」と妻に告げて家を出た。

そんな何げない日常の光景が今、

日付が15日に変わるころ、テレビ

会議で見守っていた本店の東京電力